

令和3年度 自己評価表【目標】

鳥取県立緑風高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)		1 基本的生活習慣の確立による、生徒の自己管理能力の育成 2 夢と希望を持ち、世界を広げていくことのできる生徒の育成 3 社会のルールやマナーを遵守する生徒の育成 4 基礎・基本の重視による、生徒一人一人の学力の向上 5 生徒が将来の生き方を意識する進路指導の充実 6 自律性を伴った、生徒の自主性の育成 7 自然環境について考え、行動することのできる生徒の育成			今年度の 重点目標	1 基本的な生活習慣の定着を促す。 2 生徒が主体的に取り組む授業づくり、深い学びにつながる授業づくりに取り組む。 3 個々の生徒の課題に向き合い、自立と成長を促す指導の充実に努める。 4 視野を広げ、他者と協力する体験活動の充実に努める。		
年 度 当 初								
評価項目		評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
基本的な生活習慣の定着	生活の自律	○時間を守ることができる生徒が増えている一方、決められた時間に行動できない生徒もまだ一定数いる。 ○教室等の環境整備については清掃などによりきれいに保たれている。 ○こみみの分別等環境配慮行動に対する意識は十分ではない。 ○1日の睡眠時間が6時間以内の生徒が19％。一方、スマホやゲーム等の使用時間は5時間以上の生徒が57％に及んでいる。 ○むし歯の保有率が高いが治療完了率は改善傾向にある。ブラッシング、セルフケアの指導により歯みがき習慣化が向上してきている(2回以上87％)。 ○定期的な生徒個人ロッカー内の点検と整理指導により、教材管理が身につきつつある。	○規則正しい生活を送ることができている。 ○基本的生活習慣(時間・挨拶・マナー等)について考え、行動できている。 ○「歯と口の健康」などの生活習慣や健康管理に関心を持ち、健康状態の向上に努めることができる。 ○環境美化に関心を持ち、身の周りの整理・整頓・清掃ができている。	○積極的な声かけや挨拶、丁寧な面談を通してコミュニケーションの具体例(対人関係における挨拶や対話)を提示し、習慣づけを働きかける。 ○健康的な生活を送るために必要な生活習慣について、振り返りをさせるとともに具体例(起床・就寝時刻・睡眠時間・歯と口の健康の保ち方)を提示する。 ○健やかな生活習慣を確立する具体的手立てを考えさせたり、実際に行ったりする場面を設けたりする。 ○生活習慣の改善について保護者と連携して働きかける。 ○感染予防のための衛生指導の徹底をはかる。 ○ロッカー内チェックと整理整頓の指導を行い、環境美化に努める。				
	個に応じた学力の向上	○昨年度の生徒アンケート結果では、授業は工夫されていてわかりやすいと肯定的回答が82.8％、教職員の丁寧な対応については87.3％と高い数値であった。 ○課外指導に継続的に取り組み、力をつけてきている生徒も一定数いる。 ○「まなトレ」の取り組みは、概ね良好で互いに教えあう姿も見られる。また、学び直しや進路実現にも活用している。 ○昨年度の年間の単位修得率は定時制が69.3％、通信制は84.2％でどちらも目標以上であった。 ○多くの授業でICTを活用しているが、生徒自身で学習を進めるまでには至っていない。	○ものごとに興味を持ち、主体的に学習に取り組むことができている。 ○基礎学力を身に付けたり、進路を意識し学習に取り組むことができたり、また、上級学校の入学試験や就職試験に対応できる学力を身に付けている。 ○「授業は工夫されていてわかりやすい」と回答した生徒の割合75％以上が継続している。 ○選択した科目を欠席しない環境を醸成し、定時制生徒の単位修得率は65％以上、通信制生徒の単位修得率は70％以上が継続している。	○公開授業を促進し、学習の楽しさ、深い学びにつながる内容を取り入れた授業の工夫・充実に努める。 ○「まなトレ」・課外指導を実施したり、外部の模擬試験や学力診断テスト等を活用したりして、基礎学力の向上をはかる。 ○毎日の声かけや個別の具体的な支援を行う。また、教職員間の情報交換を頻繁に行い、個別にきめ細かい指導を行う。 ○ICTのさらなる活用により、生徒個別の状況に応じた学習指導を充実させるとともに、県が支援する遠隔教育システムを活用する。 ○学生教育ボランティア(緑風ソシオ)による学習指導補助の充実をはかり、学習意欲の向上につなげる。				
生徒が目標を持ち主体的に取り組む授業づくり	意欲向上と自信づくり	○資格試験について、全般的に受験者数は少ないが、漢字能力検定や秘書技能検定や情報処理検定など、授業に関連して受験できるものや希望進路に関連する検定など、多様な検定などに挑戦した。 ○特別支援教育支援員のサポートで、生徒が安心して授業に取り組めた。 ○本校での高校生活に満足しているとの肯定的な回答は、定時制が75.2％、通信制が92.5％で、どちらも目標以上の達成であった。 ○外部講師による授業やガイダンス・体験活動などにより、生徒の意欲向上に役立った。 ○資格取得について、生徒は、授業に関連して受験できるものや、希望進路に関連する検定に意欲的に取り組んだ。	○進路意識を喚起し、勤労観・職業観を育成し、進路目標に向けて努力している。 ○各種資格試験、検定等を1人が1受験目指している。 ○高校生活に満足していると感じている生徒の割合が、定時制では65％以上、通信制では75％以上が継続している。	○各種資格試験、検定のきめ細かい案内を行い、資格取得に対する意欲向上をはかる。適性のある生徒に対して個別に受験を勧め、個別の支援を行う。 ○特別支援教育支援員による授業のサポートをととして、学習意欲の向上につなげる。 ○講演会、ガイダンス、面接講習会などの進路学習の機会を効果的に活用する。 ○進路意識を喚起し、勤労観・職業観を育成するとともに進路目標の明確化をはかる。				
	生徒の内面を理解しそれを生かした指導	○全員の生徒への声かけを日常とし、継続した担任による面談(3回以上)、SC(スクール・カウンセラー)面談などを行い、生徒理解に役立っている。 ○各部課程・学年ごとの生徒情報交換と、SC・SSW(スクール・ソーシャル・ワーカー)連絡会を定期的に実施している。また、個別支援ケースについては職員間で対応策について協議し、共通理解をはかり実践に生かしている。 ○「専門医による相談会」を実施し医療機関との連携をはかり、一定の成果が表れている。 ○昨年度は、「質問や相談に丁寧にに応じてくれる」と回答した生徒の割合が87.3％であり、目標値を上回った。	○情報を共有しながら発達課題に応じた具体的かつ現実的な支援を行い、生徒が自立へと努力している。 ○前年度に比べて不登校(年間30日以上)の欠席)であった生徒の人数が減少している。 ○質問や相談に丁寧にに応じてくれると感じる生徒の割合75％以上が継続している。	○担任などによる個人面接や様々な場面をとらえ、生徒一人ひとりとのかわわりを大切にした指導に努める。 ○全生徒に対し、担任等による面接を年間3回以上実施する。 ○教育相談係会を隔週、SC・SSW連絡会を毎月持つことにより、個々の生徒に対する具体的な支援策を策定し実行に移していく。 ○校内支援委員会を活用した組織的な支援により、各部課程をこえた情報共有と個別支援ケースの進捗状況を把握・検討する。 ○医療機関などの各種外部専門機関と連携した支援体制を充実させる。				
個々の生徒の課題に向き合い、自立と成長を促す指導の充実	自立をめざす生徒指導	○昨年度は、「マナーを意識した行動を心掛けている」と回答した生徒の割合は80.9％と目標の値以上であった。また、マナーを意識し、改善への行動がとれる生徒の割合が増加した。 ○就職活動をする生徒の大半は、様々な進路行事への出席や面談を通じて自己理解を深め、就労への意識も高めている。 ○日常生活における小さな目標を記した「チャレンジシート」は、自分の改善点を意識させ、その改善に向け一歩を踏み出す気持ちを喚起している。	○社会で通用する行動・ルールやマナーの向上の指導をととして、お互いを思いやる心や自律性と自主性が身につけている。 ○「ルールやマナーを意識した行動をとるよう心掛けている」と回答した生徒の割合75％以上が継続している。 ○進路意識を喚起し、勤労観・職業観を育成し進路目標が明確になっている。 ○身近にある差別やいじめに気づき、その解消に向けて取り組んでいる。 ○通級指導などの個別指導において、自分のことを理解し自分らしく生きていけるような力を身につけている。	○生徒一人ひとりとの関わりを大切にした声かけや挨拶を交わし、他者に配慮した言動などができるよう努める。 ○規範意識が身につくよう、ルールやマナーについて随時指導するとともに自ら考えて行動できるよう継続して働きかける。 ○進路ガイダンス、進路LHR、CA面談などで自己理解を深めさせ、キャリア設計能力や社会性を育成する。 ○生徒個々に応じた校内の支援体制を確立するとともに、外部機関と連携しながら進路実現に向けた機会をつくる。 ○人権教育LHR・人権学習講演会などの充実と、いじめアンケートを活用し未然防止、早期発見に努める。 ○通級指導等をととして、社会生活を送る上で必要な力を育成する。				
	体験活動の活用	○「TEASⅡ」(鳥取県環境管理システム)の環境改善目標は概ね達成できている。 ○昨年度も緑風祭や球技大会など、生徒会執行部が中心となり企画・運営ができた。 ○県高等学校生徒会連盟大会では、バレーボールなどの競技で好成績を取めた。 ○アルバイト就業事業、インターンシップなどの体験事業に参加した生徒は、自信を得たりコミュニケーションの大切さを学ぶなど、一定の成果を得ている。	○環境目標を達成するための具体的実践を全校で進め、省資源・省エネルギー・SDGs(持続可能な開発目標)に関する意識が高まっている。 ○授業や学級活動、生徒会活動、学校行事等に積極的に関わっている。 ○アルバイトやインターンシップなどの社会体験に取り組み、コミュニケーション能力、自己肯定感を持つ生徒が増えている。	○「TEASⅡ」を適切に運用しながら、環境美化に配慮した実践、エコ活動の推進などを、教職員全員が率先して行う。 ○委員会の活動内容を示し、生徒会執行部が中心となり主体的に企画運営できるように支援する。 ○学年や教育相談部と連携して情報を共有しながら、生徒個々の状況に合わせ、アルバイト、インターンシップなどを低年次から推進する。				
視野を広げ、他者と協力する体験活動の充実	集団への適応力の育成	○生徒面接前にhyper-QU研修を行い、結果をクラス経営に活用している。また、ユニバーサルデザインを学習環境や授業に取入れ、「わかりやすい授業」の展開に努めている。 ○SCによる1年生、2年生を対象定期面接実施、SSWの校外機関への訪問・連携、担任の家庭訪問同行等を実施し、生徒状況等の把握に努めている。 ○昨年度は「安心して通える学校だ」と回答した生徒の割合が82.2％であり、昨年度を上回った。	○年2回実施するhyper-QUにおいて、強い孤立感や孤独感が示唆されている生徒の数に顕著な改善がみられる。 ○「鳥取緑風高校は、安心して通える学校だ」と回答する生徒の割合75％以上が継続している。	○緑風ハートフルなどの活動をととして他者とのかわわり合い、人間関係づくりを促す。 ○担任とSC、SSWとの協力によって家庭訪問や校外専門機関との連携を強化し、生徒の人間関係作りを支援する。 ○ひきこもり傾向の生徒に対しても、定期的な家庭訪問等の適切なかかわりを粘り強く継続する。 ○hyper-QUや生徒実態把握の結果を生徒面接やクラス経営に積極的に活用する。				

※ 緑風ハートフル:校内外での人間関係づくりのための体験活動

※ まなトレ:高校までの学習内容学び直しのための教材

評価基準 A:十分達成(100%) B:概ね達成(80%程度) C:変化の兆し(60%程度) D:まだ不十分(40%程度) E:目標・方策の見直し(30%以下)